

1. 軽度認知障害の啓発や対応を含めた認知症予防・対策の強化を

日本の 65 歳以上の高齢者のうち認知症の方は 2020 年時点で約 602 万人、さらに団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には認知症の方だけで 700 万人前後に達し、認知症の前段階とされる軽度認知障害（以下、MC I という）を含めると 65 歳以上の 4 人に 1 人が認知症になると言われている。

内閣府の認知症施策推進大綱では、認知症になっても意思が尊重され、住み慣れた地域で生活できる「共生」と認知症の発症を遅らせる、進行を緩やかにする「予防」の取り組みが必要とされている。

認知症予防・治療で最も大切な事は、早期発見、早期対応であり、MC I の段階で対応すれば、症状の進行を改善、遅らせる事もでき、それによって、本人、家族にとっても穏やかに暮らし続ける社会になると考える。

そこで、今後は急速に高齢者が増加すると見込まれる本町でも MC I の認知を高める啓発や対応を含めた認知症予防・対策の強化が必要であると考え、次の項目を問う。

- ① 認知症と診断され、要介護（支援）認定された方の件数及び今後の見通しは、
- ② 本町における認知症予防・対策の取り組み状況は